

秋田への提言

東京から空路で約6時間。ハノイ、ノイバイ空港上空からは、見渡す限りの田んぼや畑と共に広大な工業団地が広がる。市街地では大量のバイクに遭遇し度肝を抜かれる。

ベトナムの首都ハノイの人口は約700万人。平均年齢29歳。空港から市街地までの風景は秋田と変わらないが、市内に入った途端にもすごいエネルギーを感じる。

早朝から走り始めるバイクの荷台には野菜や果物、時にはテレビや冷蔵庫が載せられ、道路脇の即席の商店に並ぶ。カットされた生肉もある。屋台ではベトナム麺のフォーやブン、おかゆが提供され、忙しい人々の胃

日本航空ベトナム支店長 天川谷 茂

袋を満たす。

こうした風景は私にとっては一種のデジャビュだ。昭和40年代の秋田でも至る所で目にされたはず。県民は将来に希望を抱き、周りに気遣つゆとりを持ちつつ、子どもたちのために必死に働いていたのではないだろうか。

万人増えて12万人だった。全体の1割にも満たないが、1人当たりの旅行支出総額は約24万円と最も高い。飲食費は外国人の中でもトップで、買い物額は「爆買い」の中国人に次ぐ。彼らの「日本熱」はどこから来るのだろうか。

に引かれ、日本食を好み、東京以外の地方を訪れて自然や温泉、郷土料理に関心を深めているそうだ。現地のベトナム人に「日本熱」の源泉を尋ねてみた。その答えは次のようなものだ。

日本旅行の初心者と違い、リピーターは地方に興味を示す。特に桜と紅葉を觀賞し、温泉に漬かってより深い日本文化を体験したい。

この話を聞いて非常に驚いた。なぜなら彼らのニーズを満足させるものが、全て秋田にそろっているからだ。

政府は6月、観光立国実現に向けたアクション・プログラムを発表した。2020年の訪日外国人旅行者は2千万人を突破、旅行消費額は4兆円に達するとされる。

ベトナム人の「日本熱」

地方の強み生かして

か。

昨年の訪日外国人は1341万人で前年を約300万人上回った。そのうちベトナム人は4

電通の「ジャパンブランド調査」によると、日本の好感度が高いのは台湾と並びベトナムと

した。そんな日本人を尊敬し、憧れを抱く。

日本は短期間で国を復興させ、先進国の仲間入りを果た

案は出そろった。ベトナム人を含めアジアからの追い風も吹いている。平田篤胤の言葉が思い浮かぶ。「上見れば 及ばぬことの多かれど 笠脱ぎてみよ 及ぶ限りを」

昭和45年の日本とちようど同じ人口ピラミッドのベトナムから、輝かしい明日の秋田を望むばかりである。



あまかわや・しげる 早稲田大学商学部卒。86年日本航空入社。ニューヨーク支店、国際営業部、WEB販売部、秋田支店長などを経て15年ベトナム支店長。美郷町出身。52歳。